

[自治体①]

『林業地の地方創生に向けた、新たな複合型森林体験拠点づくり』

～町立キャンプ場のリニューアルによる観光・交流の促進～

山田 高裕 (福井県池田町 Tree Picnic Adventure IKEDA General manager)



ただいまご紹介いただきました、福井県池田町から参りました山田と申します。

私は6年前に、東京から子どもを連れて家族で福井にUターンしました。いまは、8歳、5歳、2歳の子どもを育てながら、森と一緒に面白い町づくりができたらいいなと思っております。今日のタイトルは町立キャンプ場リニューアルとなっていますが、それと併せて池田町が取り組む町づくりについてお話しをいたします。

先ず池田町の位置ですが、このようにちょうど日本の真ん中ぐらいになります。福井県の中でも岐阜県との県境になり、足羽川という九頭竜川推計の最上流地域になります。町の概要としては、人口は2600人、高齢化率が43%、また森林が町の面積の92%を占めるといって山に囲まれた町です。高齢化率が43%なので、昨今消滅可能性自治体といわれており、福井県ではダントツでナンバーワンの状況となっています。こういう町ですので、働き手、これから町を担う20代、30代の人口がたいへん減っています。

## 町の暮らしを持続させていくために、 最後の一手

- ・ 交流人口を増やす
- ・ 若者世代の雇用を作り出す
- ・ 定住、移住者を増やす



5年くらい前までは、このままでは町が存続できないとしてたいへんな危機感を持っていました。やはり交流人口を増やすとか、若者の世代の雇用を作り出すということで定住者、移住者を増やすことについて、どうやったらいいのかなどをずっと町で議論しました。いままでも何もやっていなかったわけではなく、環境に対する色々な取組とか農業の6次産業化みたいなことなど、ずっと10年以上前から地道に取り組んでいました。ただ、それではなかなか若者の定住には結びつかなかったところで、どんどん、どんどん流出ばかりしていく、人口が減っていくということで、大きなジレンマを抱えていました。そういった中で、ある意味これがダメだったらダメだよねということで始めたのが、この池田町が92%ある森林資源を活かした地域循環型の町づくりをやるということでした。これがダメなら、もうしょうがないかもしれないね、というぐらいの気持ちで、この希望の町のプロジェクトということを始めました。このプロジェクトとは4年ぐらい前にスタートしました。

## 【木育の拠点】 おもちゃハウス こどもと木



はじめての木。はじめての温もり。



最初にキャンプ場をリニューアルしたわけではなくて、このような子どもたち、だいたい未就学の小さい子どもが、木に触れて遊べるようなちょっとした木育の場所を作りました。池田町だけでなく、どこの過疎の町でも同じ田と思うのですが、使っていない遊休資産というのがいっぱいあります。これも、もともとは使っていない木工のギャラリー、販売所でした。そこにだいたい 1500 万円ぐらいかけて、町産材をたくさん使って子どもたちが思いっきり木に触れて遊べる場所を作りました。中身はこんな感じで、遊具があったり、木のおもちゃがあったりというものです。先ほど池田町の人口は 2600 人程度とお話ししましたが、これが開業してすぐ、1 年間で町の人口の 10 倍以上の 30000 人の家族連れが来るというようになり、この施設ができたことで、いままでなかなか池田町になかった層が新たに来てくれるようなきっかけにすることができました。正直なところ、これができたときはどうなるのかなというように多少不安もあって始めたのですが、この事業でキチッと家族連れが何を求めているのかということ、私たちもしっかりと肌で感じる事ができたので、よし、この路線で行こうということにしました。

## 【木工技術の拠点】

## WOOD LABO IKEDA



こどもと大人 一緒に楽しむ木工体験



そして次に作ったのが、これもほとんど使われていなかった町の木工場をリノベーションして、Wood LABO Ikeda (ウッドラボいけだ) という子どもと大人が一緒になって木工体験を楽しめるものを作りました。こちらにはちょっと豪華なレーザーの機械とか電動の木工機械などをキッチンと入れて、スタッフがつきながら、日々の暮らの中で使えるようなスプーンづくりなど、ちゃんとした道具を作るということをテーマに、子どもたちがものづくりをできるようにしています。ここは木工体験の拠点というふうに捉えています。このように、3年前に、いまの木工の拠点、技術の拠点という前段があった中で、いよいよ森林学習とツリーピクニックアドベンチャーいけだという施設を開業しました。こちらこそが、知る人ぞ知るといような、年間に1000人ぐらいのお客さんしか来てもらえない、古い小さなキャンプ場でしたこれをリニューアルしたのです。ツリーピクニックアドベンチャーのコンセプトは、木と山が育む好奇心を最大に引き出すことです。これがどういった施設であるかというのは、この動画をご覧ください。

(動画上映・約2分)

## Tree Picnic Adventure IKEDA 施設概要



### <概要>

営業開始：平成28年4月  
年間客数：3万7千人(アクティビティ体験者)  
年間売上：1億3千万円

### <事業内容>

- ①メガジップラインの運営
- ②アドベンチャーパークの運営
- ③アドベンチャーボートの運営
- ④コテージ・カフェ運営
- ⑤自然体験・ガイドツアーの運営

### <新規雇用>

- ①職員平均年齢 35歳
- ②30名スタッフ(21名が正社員雇用)  
【内訳】  
1/3が町内在住者  
1/3が町外からの通勤者  
1/3が県外からの移住者

いま、ザッと施設の概要を動画でご覧いただきましたが、平成28年に営業を開始して、宿泊を除いたアクティビティの体験者として、年間で37000人ほどにご利用いただいています。その年間の売上げが、だいたい1億3000万円です。ツリーピクニックアドベンチャー施設の概要としては、ビューンと空を飛ぶメガジップライン、木の上のアスレチックのアドベンチャーパーク、そして足羽川という川の川下りをするアドベンチャーボート、それにカフェとかコテージでの宿泊、ガイドツアーなども運営しています。勤めている職員の平均年齢は非常に若くて、だいたい35歳です。現在30名ぐらいのスタッフがいます、そのうちの21名が正社員です。職員30名のうちの3分の1が町内の者、3分の1が町外から通い、3分の1が県外から移住をした者ということで、ちょうどバランスが取れたスタッフの構成となっています。

お客様としては、これは私たちの狙いどおりになっていて、年齢階で区分すると、一番多いのが40代のファミリー、次いで友達やカップルの20代、そして30代のファミリーという順になっています。そういうことで20代から40代が9割近くを締めています。来場の単位では、ファミリーが半数以上、あとは友人、カップルとなっています。池田町の位置は山の中なのですが、ご利用いただいているお客様の8割以上は県外からのお客様です。多いのは福井県以外の北陸圏で、石川、富山が多くて、次いで中京・関西が2割くらいずつで、車の移動で3時間圏内といったところで、こういったところが商圏に入っているものと考えます。私たちとしては、施設がこういったへんぴな過疎の町にありますので、お客様にどうやって来ていただくか、そして1度お見えになったお客様にどのようにしてリピーターになって来ていただくかということを考えています。そこで考えたのは、子どもはだいたい4歳ぐらいから本格的なアドベンチャー体験が可能

になるということですので、100cm から順次 110cm、120cm、130cm と、だいたい 1 年ごとくらいに新しい体験できるようなプログラム構築を行っています。これによってお子さんが、また来年行きたい、そして大きくなったら次のプログラムをやりたいと、成長に伴って子どもさんがお父さんお母さんに言ってもらって、毎年来て色々な体験学習ができるようなプログラムにしていきたいと考えています。

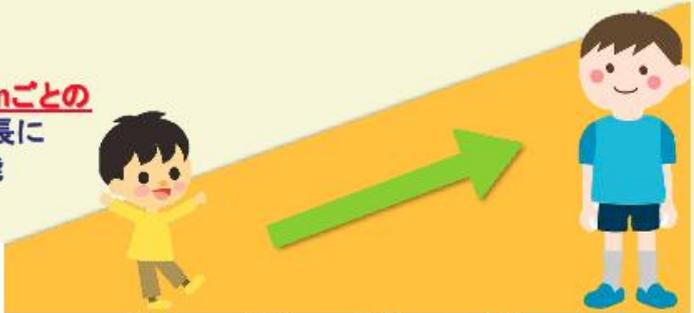
## 長期的な関係性づくり



身長100cm(4歳程度)から  
本格的なアドベンチャー体験が可能。

さらに100cm～140cmまで身長10cmごとの  
体験プログラムを用意し、子どもの成長に  
合わせて毎年新たなチャレンジが可能

**繰り返し訪れる場所へ**



100cm   110cm   120cm   130cm   140cm



アドベンチャーボート(100cm～)



キッズコース(110cm～)



ツリークライムコース(120cm～)

もう一つ、ちょっと見づらいですが、このアドベンチャーボートの写真は、小さい女の子のファミリーがニコニコと笑って乗っているところです。アドベンチャーボートというと、一般的にはスタッフが一緒に乗って川下りをするというものですが、私どものアドベンチャーボートでは、スタッフは乗りません。その代わり川沿いにある遊歩道を、3～4人のスタッフがボートに沿って安全を確保しながらズーッと伴走します。ですから、ボートはファミリーだけのチャレンジとなり、足羽川の源流を下るあいだはファミリーだけのアドベンチャーということになります。下っていく途中には、ボートが引っかかることもありますので、そういったときには、普段子どもさんとのコミュニケーションが少ないお父さんとしても、ここでは船の船長になって出て行ってボートを動かせるようにすることで、ボートの中でのファミリーのチームビルディングが実現できるといった成果も出ています。これは家族だけでの 2km の川下りなのですが、そういったことから、ファミリーの濃密なコミュニケーションがとれるということで、好評をいただいています。

また真ん中の写真は、キッズコースという 110cm からお子様だけでチャレンジできるコースで、ここも私たちオリジナルのプログラムを組んでいて、だいたい 7 人ぐらいの初めてのキッズ

を集めてプログラムを行います。はじめにみんなでキチンと挨拶をして、自己紹介をして、一緒にみんなで協力しながらプログラムをやっていくのです。だいたい保育園の年長さんくらいから体験できるプログラムで、他者との関係性をちょっと学ぶというようなことも、このキッズコースでは含まれています。このように、単なるアスレチックということだけではなく、家族のいいコミュニケーションであるとか、子どものちょっとした社会性を身に付けることも重視してプログラムを運営しています。

## 冒険心を最大限に引き出すしかけ



### <樹上テント> 子どもの冒険心をくすぐる木の上の秘密基地



#### <樹上テント 概要>

利用人数 : 最大4名

地上高 : 約4m

料金 : 16,000円

デッキ面積: 12㎡

グランピングではなく、  
TreePicnicの体験を提供

これは、子供心とお父さんの子どもの頃の夢みたいな樹上の秘密基地を実現しようということで、昨年からは運営を始めた樹上テントというもののものです。グランピングというものもいいのですが、どちらかというと、この施設はグランピングではなくてツリーピクニックという樹上の活動の中で色々な冒険をするということを提供しています。同じテント宿泊でも、そんなに広い空間ではなく、当然虫もいっぱいいて、そこまで快適ではないのですが、大人も子どもも、あこがれだった木の上でお泊まりするということを、この樹上テントで実現しています。

## 『地域×森林』を活かした教育プログラム



### <森の学びプログラム>

- ・チームチャレンジャーニング(チームビルディング)
- ・森のお仕事体験
- ・森のロゲイニング



地元小学1年生の新割体験



地元小学1年生のネイチャーゲーム

また、いま私たちが力を入れているのは、地域と森林を活かした教育プログラムというものです。森の学びのプログラムということで、これには3つ要素があって、1つ目はいわゆるチームリーディングで、これは当施設ではオリジナルの名前でチームチャレンジャーニングとっています。2つ目は森のお仕事体験、3つ目は森のロゲイニングというものを、当施設ではオリジナルで作っています。そのお仕事体験と森のロゲイニングをご紹介します。

先ずお仕事体験についてお話します。これは、学校などの教育団体の活動とか、企業研修をメインのターゲットとして提供しています。体験は、スタッフや地域住民の皆さんに教わりながら里山の仕事を体験する、ノコギリで丸太を切ったり、オノで薪割りをしたり、また火起こしをしたりなど、普段なかなか使わない山の道具を使いながら、間伐材などの利活用を学ぶという体験となっています。また、下草刈りをしたり、植樹をしたりして、森の手入れをしながら、森の仕事の楽しさを知るといった体験をします。自分で手入れをした森には愛着が湧きますので、また来年来て手入れをしたくなるということもありますので、こういったことを提供しています。

もう一つは、森のロゲイニングです。このロゲイニングとはなにかと言いますと、ウォークラリーみたいなものです。ある一定のエリアに色々な課題が設定してあり、そこをチームごとに回りながらチームで協力しながら課題を解決していくというプログラムです。これを私どもは地域の森と集落を使ってプログラムを作っています。課題には、例えば木の年齢を考えたり、樹高の測定をしたりなど、他には、色々な樹種の薪を置いておいて、目隠しをした秤でぴったり2kgになるように薪を詰めようといった体験もあります。木には針葉樹も広葉樹もあり、生木も乾燥した木もあり、木によって、あるいは乾燥状態により重さが違うといったようなことも学んでもら

うといったプログラムになっています。ロゲイニングでは、チームとして集落を歩きながら、地域をそして文化を感じてもらえるようになっています。

こういったプログラムがだんだんと認知され始めて、福井県は関西方面からの修学旅行を受け入れていこうというふうになっているところまで、池田町としては昨年はじめて大阪からの修学力を受け入れ、森のプログラムの体験をしていただきました。

## 厄介者の雪を資源に

### <ウィンタージップライン>



### <スノーシューハイク>



**冬ならではの町の素材と組み合わせ**

**温泉やジビエ料理など  
近所の冬の魅力と  
一緒に誘客PR**





溪流温泉 冠荘



猪や熊のフルコース料理

それから、先ほどご紹介した動画に出てきましたように池田町は豪雪地帯で、私たちの周辺では1.5~2mくらいの雪が積もります。いままでは、冬は何してもダメだということであったのですが、そうではなくてしっかり雪を資源として使っていこうということにしました。これは全国でも珍しいことですが、私たちはウィンタージップラインって雪の森をビューンと飛ぶプログラムを提供しています。また、スノーシューハイクもあります。当然ですが、雪山なのでおいしいジビエもありますし、温泉もありますので、こういった素材と組み合わせ、町ごと一緒に楽しんでいただくようなプログラムをPRしています。

これはイベントのご紹介です。こういった町なので、色々やらないと振り向いてもらえないのですが、その中で一番の人気なのは、ナイトジップラインというイベントです。これは文字通り夜の森を飛ぶジップラインで、年に3、4回、満月の夜に行っていて、とてもきれいです。夜の森の中に歩いて入って行くというのは、もう人間の領域ではない、完全にもう動物の世界に入っていくので、本当に五感を刺激されて、怖いですし、ドキドキするなど味わったことのない体験をする中で、きれいな月明かりに照らされた森の中を飛ぶという、ここでしか見られない風景をみて体感を得るといった体験ができるイベントとなっています。昨年も3、4回開催しましたが、

希望者はすぐに定員に達するといった状況でした。

## プロジェクトの成果

町の交流人口は着実に増加している。  
プロジェクトに携わるため、U・Iターン者も増加しつつあり  
町の活性化を支える『幹』がどんどん太く強くなってきている。  
一方で、子育て世代の働き方も今後の課題。

### ■ 移住者数の変化

年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017		
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29		
世帯	1	6	4	8	14	19	17	69	世帯
人数	1	7	7	16	21	32	23	107	人



そんなことで、先ほどの木育の施設から木工の施設、こういったアドベンチャーパークは3年ほど経っていますが、どんどんとUターン、Iターン者が増加をしています。平成27年、黄色い網掛けをしている部分がこの事業を始めてからでして、移住者の世帯数はそれまでズーッと1桁で推移していたものが、この事業を始めてからは2桁、数で移住者も増えてきています。新しい担い手というのがどんどん仲間に加わっているといった状況です。ただ一方で、やはりこの子育て世代というのがどんどん入ってきているのですが、子育て世代であるからこそ、やはりその私たちの勝負は土日、週末、夏休みですので、なかなか子育て世代がどうすれば無理なく働くことができるかということが大きな課題になっています。そこで新年度に向けていま準備をしているのが、先ほどご紹介した木育施設であるとか、アドベンチャーパークの施設で働くスタッフの子どもたちがあずかって、社内託児所森の幼稚園みたいなものを実施できないかということでこれから計画を練っているところです。そういうふうにしなから、無理なく子育て世代が働けるような体制を作っていきたいと思っています。

ツリーピクニックアドベンチャーとしては、今後、ただのアスレチックの施設ではなく、町に滞在しながら、職務体験、温泉での癒やし、農山村の風景といった色々な体験が味わえるというような、ツリーピクニックアドベンチャーランドみたいな日本一のテーマパークというものを目指しています。緑の網掛けのうち、私たちのツリーピクニックアドベンチャーはこの黄色い部分で本当にほんの一部です。ただ、これがみどりのエリアまで広まると、吊り橋もあつたり、越前蕎麦と作つたり食べることができたり、温泉があつたり、きれいな川沿いに遊歩道があつたりな

ど、半径 300m以内に非常にいい資源がありいっぱいあります。こういった、集落の資源は、いまは点在しているだけなのですが、これらをキチンと結びつけて大きな面にしていく中で、ここ池田町にしかない場所を作っていこうというふうに思っています。

最後になりましたが、池田町の町長の言葉で、選ばない町は選ばれない、ということをおっしゃいます。これだけ日本中、地方創生で田舎が頑張っていく中で、池田町は木と共に生きるということを明確にメッセージとして発信して、これからまた新しい仲間たちを連れながら町づくりをしていこうと思っています。

以上、福井県池田町の取組の状況についてご紹介いたしました。ご清聴いただきありがとうございました。